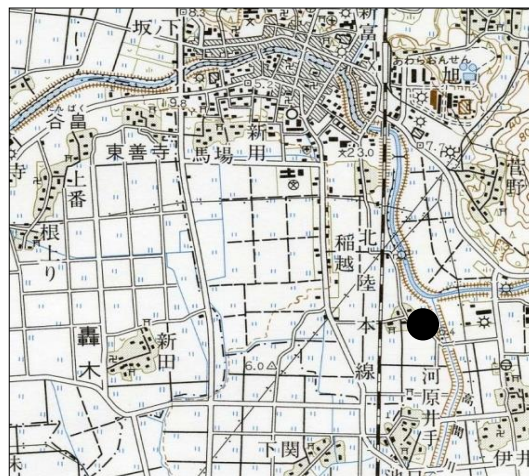


みなみいなごえいせき

1. 南稲越遺跡

所在地:あわら市伊井
調査原因:北陸新幹線建設事業
調査期間:平成30年5月1日～6月29日
調査主体:福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積:380㎡
時代:弥生時代後期～古墳時代前期、近代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 南稲越遺跡は、稲越集落と高間川にはさまれた水田地帯に広がる遺跡です。平成5年度に旧金津町が丁字交差点部分の調査を行い、平成16～17年度に、あわら市が高間川の水門左岸で発掘調査を実施した経緯があります。平成2年度に旧金津町が調査した伊井遺跡の成果も踏まえると、竹田川左岸には弥生時代後期～古墳時代前期のムラが極めて良好な状況で存在していることが明らかになりました。

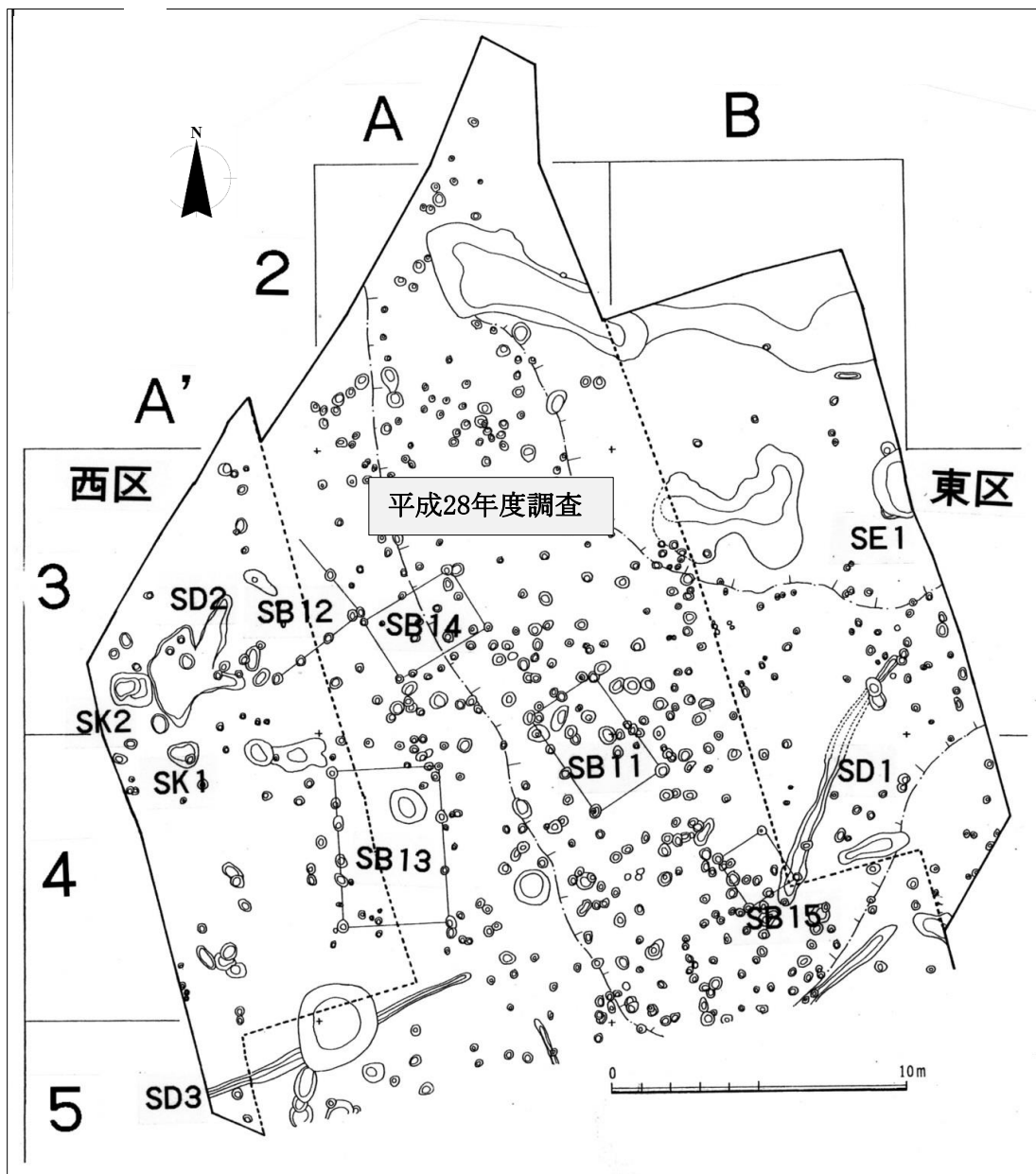
県では北陸新幹線建設事業に伴い、平成27年度に550㎡、平成28年度に4,150㎡の面積を対象に調査を行い、これまでに掘立柱建物12棟、竪穴建物2棟、井戸4基、土坑36基、溝、川が見つかりました。遺物も土器を中心に126箱分出土しました。今回の調査は、平成28年度の調査区北端を東西からはさむように、2か所(東区・西区)設定しました。標高は遺構面で約5.5mを測ります。

遺構 調査の結果、遺跡は北東へゆるやかに傾く地形を呈し、東区では多くの小穴、井戸1基(SE1)が見つかりました。西区では平成28年度調査区で確認した掘立柱建物(SB12・13)の続きや土坑が見つかりました。掘立柱建物SB13は古墳時代前期(4世紀)以前の建物、SE1は水田耕作土の下の包含層を掘りこんで構築していたため、近代の井戸と考えます。

遺物 全体的に水田下の厚さ40cmの包含層に含まれていたモノがほとんどで、弥生時代後期～古墳時代前期の土器が16箱分出土しました。さらに、東方に隣接する伊井遺跡との関連するヒスイ製勾玉や管玉の未成品といった玉作り関連遺物も18点見つかりました。

ただし、よく観察すると、この包含層は須恵器、中世陶器、近代のゴミも若干含んでおり、以前の圃場整備か、高間川の改修工事の際に遺跡を破壊した盛土の可能性ががあります。

まとめ これまでの調査結果を踏まえると、西区は集落域であり、東区は玉作り工房で構成される伊井遺跡の縁辺に含まれると考えます。集落、墓域、玉作り生産が一体となった南稲越遺跡のムラは短い期間で終わりを迎えています。古墳時代前期にどのような原因で集落が廃絶したのか、今後の成果が期待されます。(鈴木篤英)



調査区の全体図



玉作り関連遺物【首飾りの材料、道具、未完成品】



東区・西区調査区全体(北西から)



西区SK1 (南から)



東区SE1 (西から)



西区SB13西辺柱列 (南から)